

# 医薬品の販売制度に関する検討会 説明資料



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

顧客起点の医薬品流通検討会 座長  
荻原 肇

- ◆ 設 立: 1972年【通産大臣の認可を受け社団法人として設立】
- ◆ 目 的: フランチャイズ・システムの健全な発展を図る
- ◆ 活 動: 調査研究、規範策定、普及啓発（広報活動）、指導・相談（FC相談）  
社会貢献（防犯・防災対策、環境対策等）、会員交流、国際業務等
- ◆ 構 成: フランチャイザー及びフランチャイズ・ビジネスに関心を持ち  
当協会の趣旨に賛同する企業（会員社: 2023年1月現在492社）  
⇒ JFA内に「顧客起点の医薬品流通検討会」を設置し、コンビニ4社で議論を行っている

## 提案の理由

- 一般用医薬品はドラッグストアやインターネット等でも販売されているが、深夜や早朝等に急な体調変化（突然おなかが痛くなったり、頭痛がするようなケース等）があり、お手持ちの薬がない場合や、災害時のライフラインとして、いつでも開いている コンビニにて一般用医薬品を販売して欲しいとのニーズがある。お客様のニーズに corres 応するためにも、コンビニにて医薬品販売店舗が拡大できるように、一般用医薬品の遠隔販売を実現したい

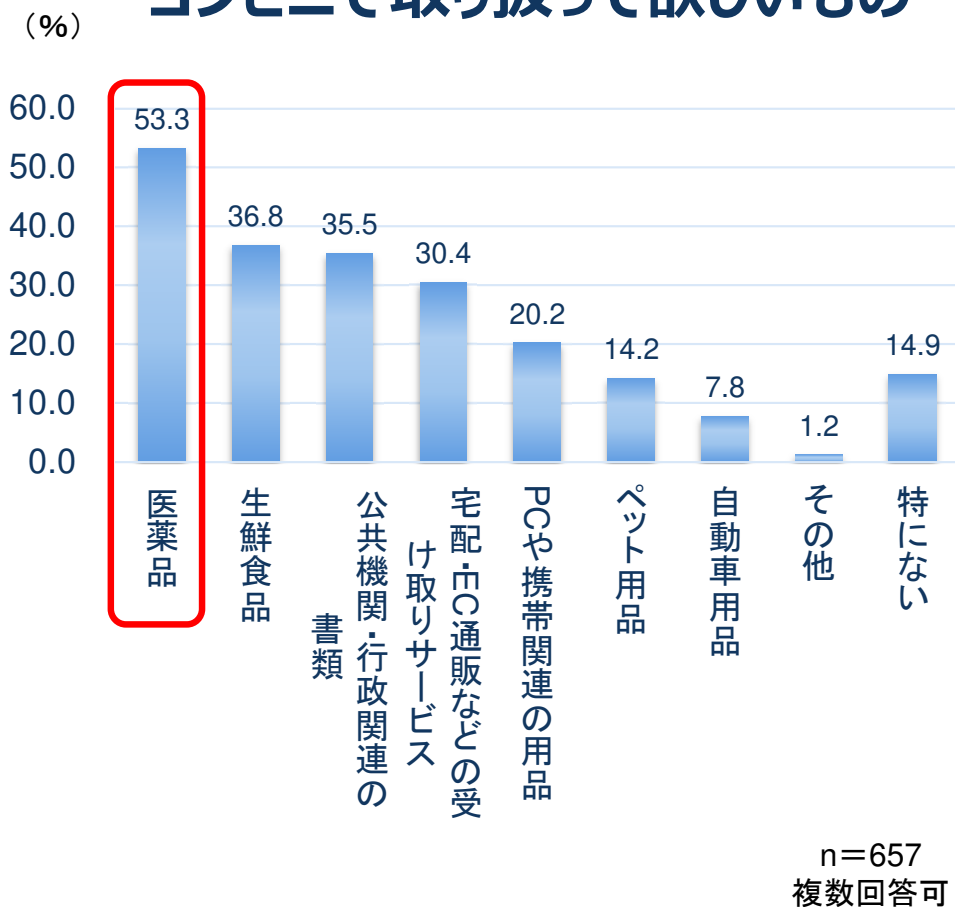
※コンビニ57,260店舗の内、  
医薬品販売店舗数は424店舗。全店舗に占める割合は 0.7%。（2023年2月末時点）

# コンビニにおける医薬品販売の現状

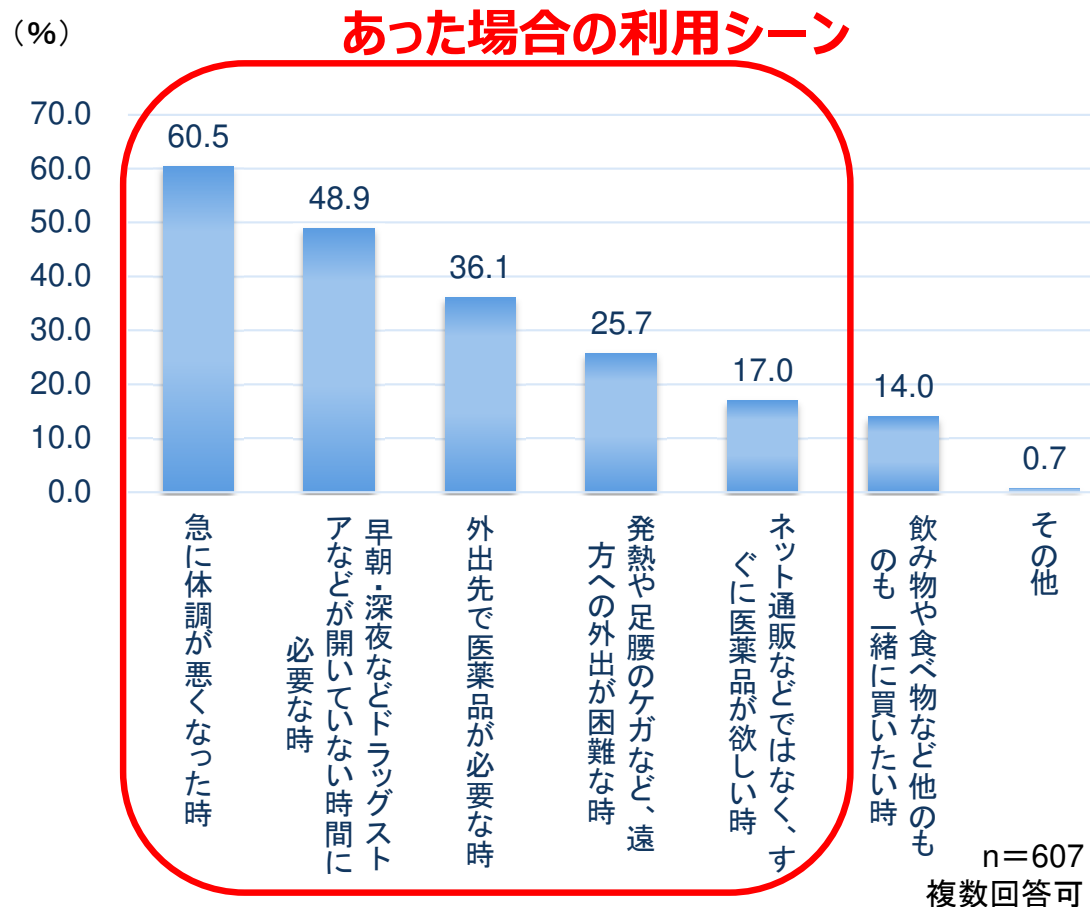
取り扱って欲しいものとしても**医薬品が最もニーズが高い**。

深夜・早朝などに腹痛や発熱などの急な体調変化におけるコンビニでの医薬品購入のニーズが高い。

## コンビニで取り扱って欲しいもの



## コンビニで一般用医薬品の取扱いがあった場合の利用シーン



※2021年11月 (株)ロイヤリティーマーケティング社により実施

(コンビニで医薬品の購入意向ありの方に限定)

災害などの緊急時においても、コンビニでの医薬品取扱ニーズは高い。

過去の災害時でも、コンビニにおける医薬品販売量は増加し、ライフラインとしての役割が期待される。

### 平成30年7月豪雨(西日本豪雨)

広島県内における医薬品販売許可を受けたコンビニにおいて、一般用医薬品の販売が大きく増加

通常時 → 災害時

**4倍の増加**

### 令和元年8月九州北部豪雨

熊本県内における医薬品販売許可を受けた複数のコンビニにおいて、避難勧告発令後、一般用医薬品の販売が大きく増加

通常時 → 災害時

**約30~50%の増加**



緊急救援物資貨物車輛



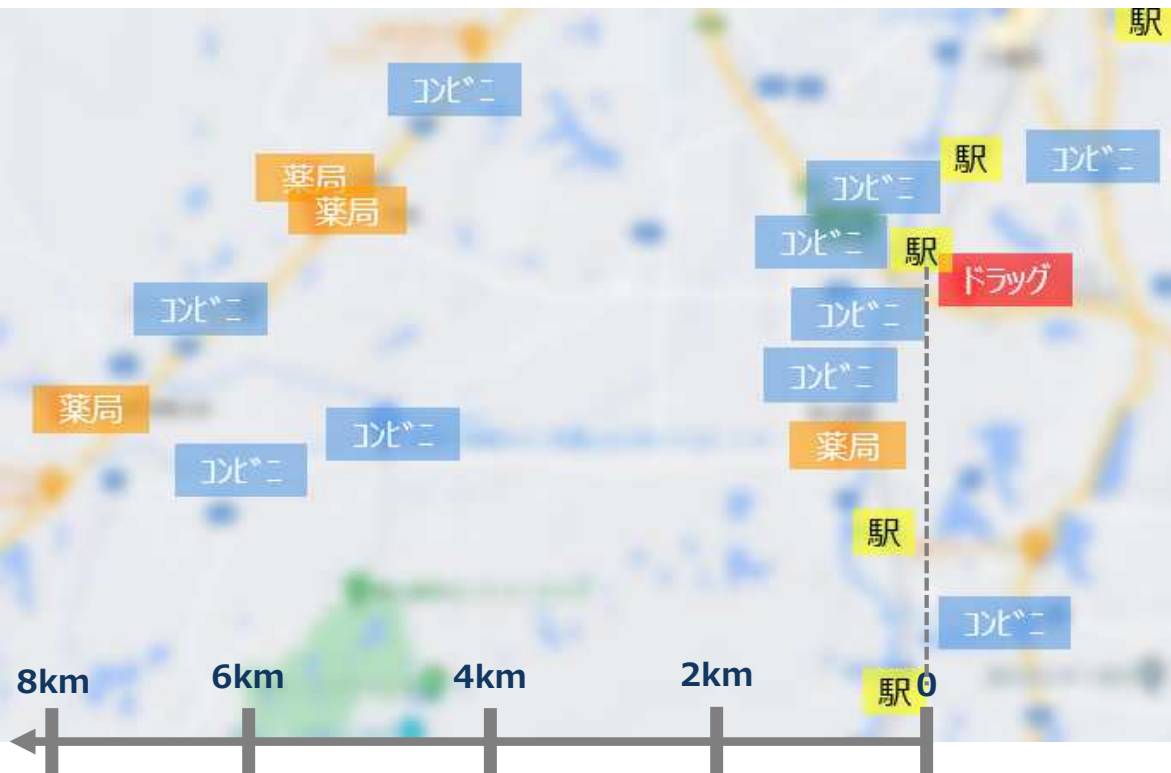
豪雨災害の状況



飲料や食料を従業員が納品

例えば駅周辺にはドラッグストアがあるが、駅から遠く離れるとコンビニのほうが近いエリアも存在する。薬局が近くにあっても営業時間が短いことが多く、災害などの有事も含め、コンビニはインフラとして期待される側面もある。

→コンビニは地元密着できる形として独立開業するフランチャイズの仕組みをとっており、**全国津々浦々にお店がバランスよく点在している。**



## 本部に寄せられたお客様の声

夜に熱を出したが、薬局の営業時間に間に合わず。コンビニでOTC医薬品を取り扱ってほしい。

近所のコンビニに医薬品コーナーが出来た。鎮痛剤とか風邪薬とか助かる(^-^)

正月の夜に腹痛・嘔吐で病院へいったところ、検査できないと言われ、コンビニに車をとめていたら、コンビニの方が水やビニール袋を提供してくださり、助かった。



## デジタルでの在庫管理



## コンビニ受取システム



## POSシステム



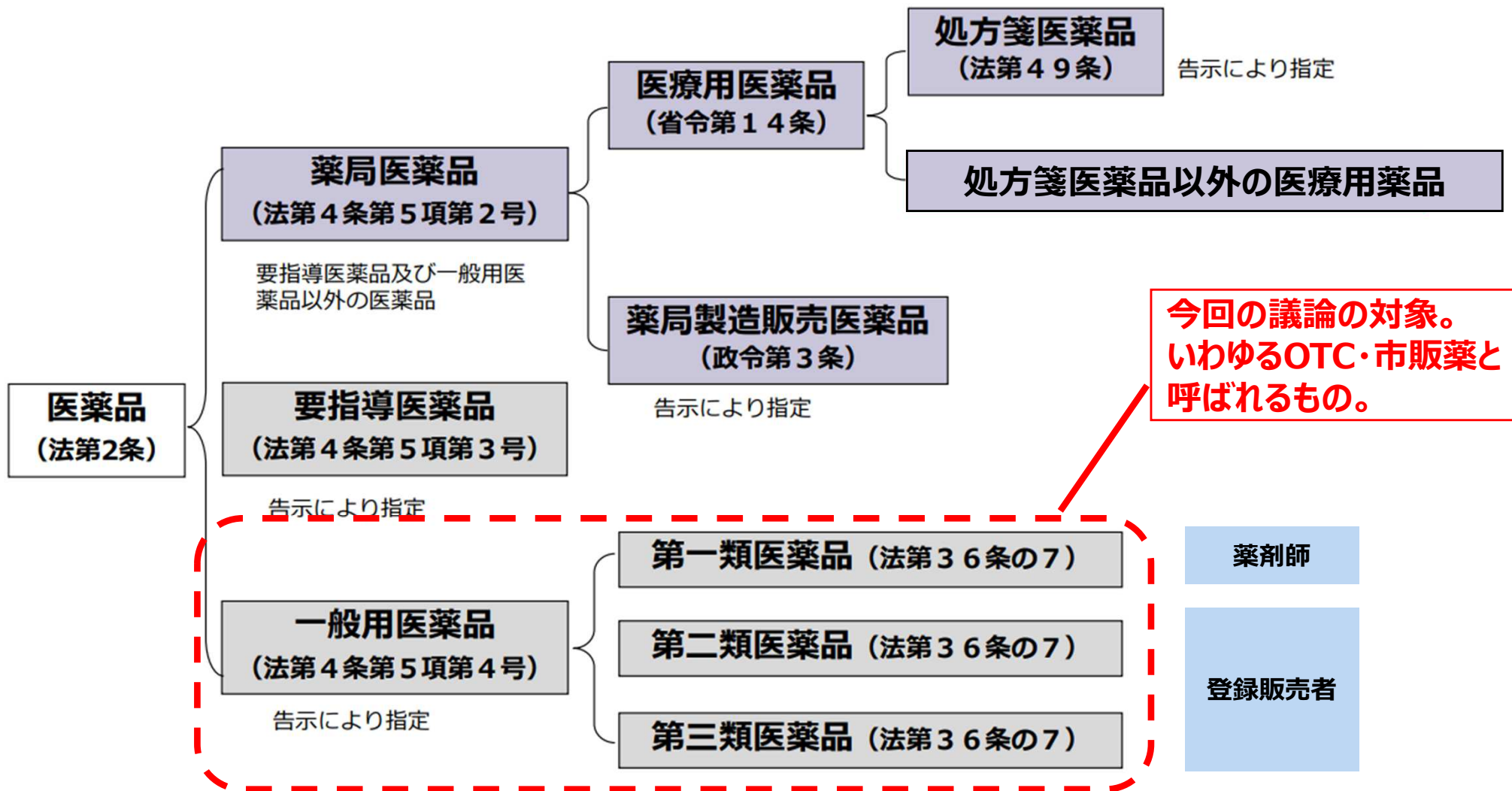
在庫管理・受取管理・売上管理の仕組みを応用し、履歴も追跡できるような仕組みとなれば、安全性について担保できる可能性がある

✓ 既存のシステムを活用するなどして、多くの場所で医薬品を扱うことが可能となれば、ライフランのひとつとして、地域住民の方にさらなる安心感を与えることが可能

# デジタル技術を活用した 医薬品販売のご提案



デジタル技術を活用し、お客様に届けたい医薬品の対象はネット販売同様の  
**第一類医薬品・第二類医薬品・第三類医薬品**



※厚生労働省「第1回医薬品の販売制度に関する検討会」事務局資料を当協会にて整理したもの

一般用医薬品の購入は、店舗/ネット経由の2つの手段があるが、**いずれも急な医薬品ニーズを十分に満たすものではなく、必要な時に購入・お渡しできる環境を整える事が重要**

## 店舗での購入



- ・深夜・早朝に医薬品を購入できる店舗が少ない
- ・店舗まで距離があり時間がかかるケースが多い

## インターネットでの購入



- ・手元に届くまで時間かかる (約1-5日間)

デジタル技術の活用により、有資格者が店舗にいないときにも購入でき、最寄りの店舗でいつでも受け取れるようにすることで、お客様の高いニーズに応えられる

## イメージ

自宅などから相談するパターン



①有資格者と遠隔で  
情報提供・相談対応



A社 薬剤師・登録販売者

相談者の状況を確認し、販売を許可するか判断

②有資格者の販売許可後  
確認証を店員に提示し、  
近隣店舗で決済・医薬品  
の受取り

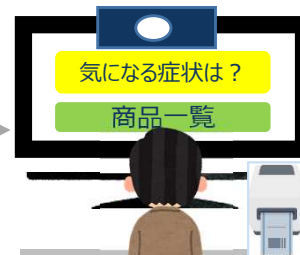
店舗内

24



B社 店員

②有資格者の販売許可後  
確認証を店員に提示し、  
決済・医薬品の受け取り



店舗から相談するパターン

- ・遠隔で必ず有資格者が販売許可の可否を行うことが前提
- ・販売許可はバーコード等をキーとし、販売許可がないと店舗で受け渡せない形とする
- ・店舗の医薬品の在庫・保管状況や受取状況をデジタル技術を活用して遠隔で管理する

## イメージ

自宅などから相談するパターン

①有資格者と遠隔で  
情報提供・相談対応

相談者の状況を  
確認し、販売を  
許可するか判断

A社 薬剤師・登録販売者

②有資格者の販売許可後  
確認証を店員に提示し、  
近隣店舗で決済・医薬品  
の受取り

## 店舗内

24



B社 店員



・在庫状況  
・保管状況  
・受取状況  
を遠隔で管理

バーコード等をキー  
とした販売許可

①有資格者と遠隔で  
情報提供・相談対応

店舗から相談するパターン

## お客様



- ・いつでもどこでも購入可能
- ・十分な相談が可能
- ・プライバシー保護
- ・購入履歴の保持
- ・・・具合が悪いときに自宅からでも購入ができる
- ・・・廻りの目を気にせずに相談ができる
- ・・・購入しづらい商品もゆっくり選べる
- ・・・注意事項、アドバイス等を後で確認できる

## 有資格者

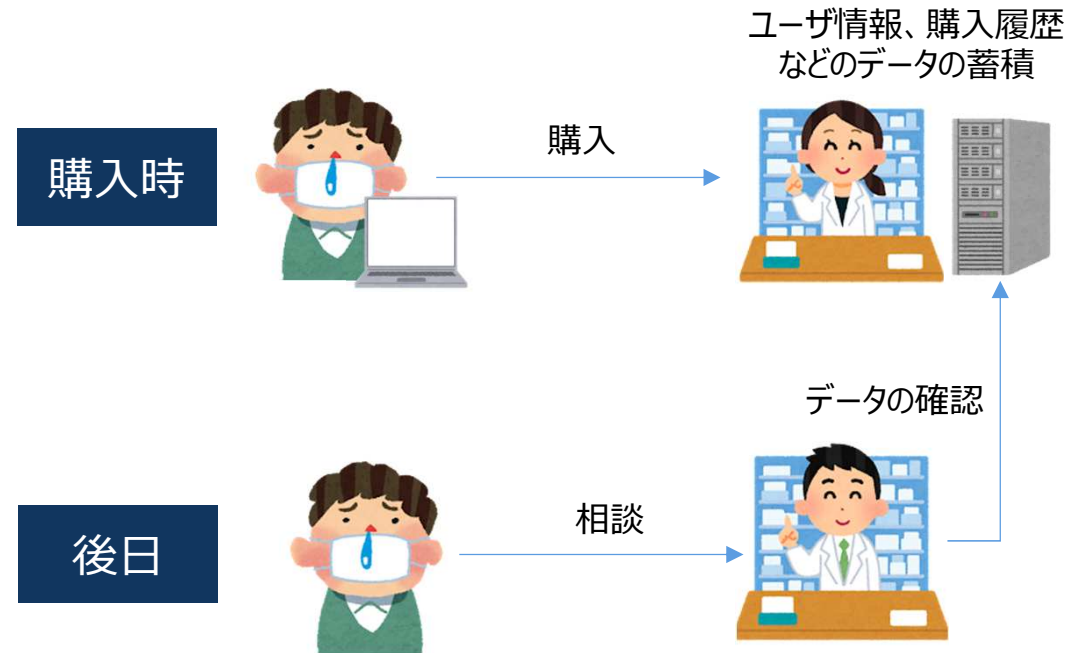
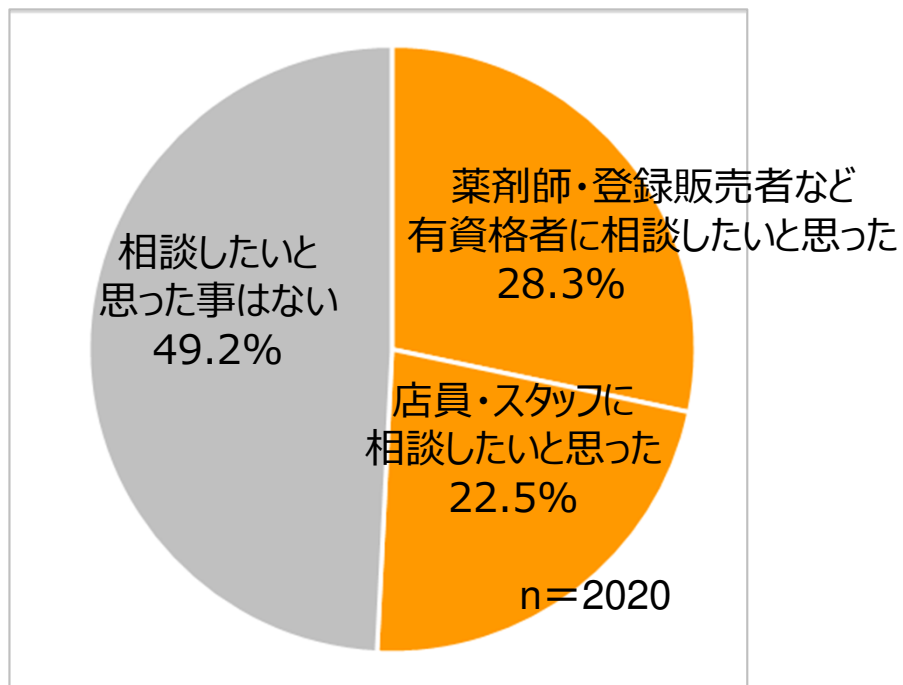


- ・購入後のフォローアップ
- ・購入履歴の確認
- ・有資格者の活躍
- ・・・更なるデジタル技術を活用すれば、購入後の相談を受けることが可能になる
- ・・・受診勧奨が必要な際に参考にできる
- ・・・店舗以外からでも情報提供・相談対応できれば、柔軟な働き方の実現に繋がる



医薬品の**購入後**には、**約半数が相談したい**ことがあったと回答。  
 オンラインでの販売であれば、購入者、販売履歴などのデータが残るため、後日相談があった際、販売対応した資格者が対応できる。  
 仮に、担当した資格者以外が対応する場合も、データを基に適切に対応できる。

## ■ 薬を**購入後**に従業員などに相談したいと思ったことがあるか



※2021年11月 (株)ロイヤリティマーケティング社により実施

販売時とは別の資格者であっても、データを基に、どういう人が、  
 どういう薬を購入したかなど確認の上、相談対応が可能



- ・有資格者が販売許可した一般用医薬品を様々なところで受け取ることができれば、症状に苦しむ多くの人への助けにつながる
- ・薬剤師/登録販売者の地域偏在解消にもつながる



遠隔での相談対応  
販売許可



最寄り一番便利なところで受取  
が可能になる



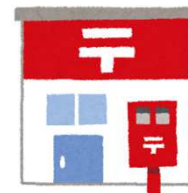
### ■ドラッグストア

店舗に有資格者が不在の時間であっても  
医薬品を受け渡すことが可能になる



### ■商店・スーパーマーケット

住宅街に近いところにあり、早朝・深夜に  
営業している店舗もある



### ■郵便局

商店やコンビニすらない過疎地域などでも  
ある場合がある



### ■コンビニ

24時間営業が基本で全国的に店舗数も  
多い

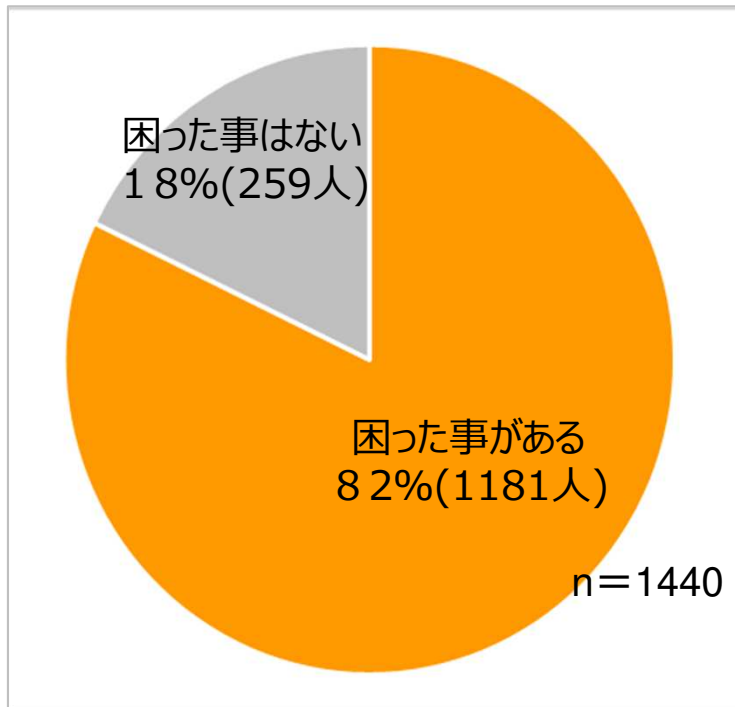
#### 〈実現された時のイメージ〉

**平時:**一般用医薬品を取り扱う店舗が増加し、働く方、子育て世代、遠方への移動が困難な高齢者などの利便性向上。薬局が少ない地方でも購入しやすい環境が整う。

**有事:**災害時において、迅速な物流網復旧により、一般用医薬品の早期の入手が可能になる。

一般用医薬品購入しようとした際に**約82%**の方が困った経験があると回答。  
このうち、今回の提案が実現すれば**約半数のお困りごとが解決**できる。

## ■薬を購入する際に困ったことがあるか



## ■「困った事がある」と回答した方(どのような事で困ったか(複数回答可))

あなたはこれまでOTC医薬品の購入の際、どのようなことで困ったのかお答えください。	%
薬剤師などがいない時間で、お店は開いていたが目的の医薬品を購入できなかった	18.6
お店が開いていない時間に必要になり、購入できなかった	18.2
どの医薬品がよいか相談できず、どれを買っていいかわからなかった	17.0
体調が悪い中、遠くのお店に行く必要があった	9.3
買いに行きたくても、症状が重く/辛くて買いに行けなかった(同居人がいない等)	7.8
症状が重く/辛くて、ネットで購入しようと思ったが、届くのにかかるのであきらめた	3.4
上記以外の理由で困った	25.3
その他	0.4
計	100.0

※2021年11月 (株)ロイヤリティーマーケティング社により実施 n=1181

現状では一般用医薬品の入手に対する課題が存在している



安全性を担保した上でのデジタル技術を活用した医薬品販売は技術的に可能



地域に根付いた店舗がデジタル技術を活用して医薬品販売できるようになれば、「地域住民の健康維持のためのファーストアクセス機能の充実」も実現できる

- ✓ **消費者の利便性向上**
- ✓ **社会インフラとしての店舗活用**
- ✓ **セルフメディケーションの推進**
- ✓ **有資格者の働きがい向上**